

秀賞

「生きる」

山形県天童市立第四中学校

3年 高橋 南

「生きる」とは何か。

誰かの役に立つこと？

それとも、自分の夢をかなえること？

まだ、答えは見つからない。でも、今わかることは、大切な人と過ごせることはかけがえがないということだ。

最近、よく考えることがある。それは、生きるとは何か、ということだ。同じことの繰り返しの日々。勉強しても上がらない成績。思うようにいかない人間関係。「自分なんて嫌い」と、つい人と比べては落ち込んでしまう。私にとって生きることは不安だらけで、決していいものとはいえない。しかも今年は受験生となり、自分と向き合う時間が増えた。その分、心の中に「負」の感情が顔を出すことも多くなった。そんな私の「日常」に、大切な人との別れは突然やってきた。

大好きだった祖母の死。病名は胃がん。宣告を受けたときはもう手術をしても助からない状態だったようだ。体調の不調を訴えた最初の受診から、あっという間に祖母はこの世を去った。私は、祖母の最期に立ち会うことができなかった。猛威を振るうコロナウイルスは、大切な人との別れの時間も容赦なく奪った。祖母の最期に感謝の言葉を伝えることはできなかった。

祖母はとてもやさしい人だった。心配性の孫に、自分の弱った姿を見せまいと思ったのだろうか。亡くなる直前まで、私が祖母の重い病気のことを知ることはなかった。ある時から頻繁に祖母の家を行き来するようになった両親の姿に、状況を察した私だったが、怖くて真実を聞けなかった。「おばあちゃんはもしかして……」の次に浮かぶ言葉を必死で消している自分がいた。

目を閉じれば浮かぶ、祖母の笑顔。目を細めながら、顔をくしゃくしゃにして笑う顔に安心した。いつも自信の持てない私にかけてくれた「しっかりしてるね」「南はえらい」という祖母の言葉に救われていた。もう祖母には会えない。その言葉は今では「宝物」になってしまった。

祖母は生きることを楽しんでいた。庭のガーデニングをはじめとして、たくさんの方にチャレンジしていた。私も祖母のように何事も楽しみ、笑顔で生きていきたいと思った。

祖母がいない今、同じ思いが反芻する。どうして、一緒に過ごせる時間をも

っと大切にできなかったのだろうか。

孔子の『論語』の一つに、こんな言葉がある。「君子は言に訥にして行いに敏ならんと欲す。」これは、君子は、言葉は上手に言えないが、行動はすぐに実行したいと願い、努力するものだ、という意味だ。この言葉を聞いたとき「伝える機会があるうちに、相手がいるうちに、言葉にすることが大切だ」と教えられている気がした。

日々流れる命に関するニュース。事故や事件に巻き込まれたり、自ら命を絶ってしまったりして、尊い命が失われていく現実をととても心苦しく感じる。その人たちにとって大切な人、残された人の気持ちを考えると胸が痛い。大切な人と過ごしたかけがえのない時間をどんな思いでかみしめているのだろうか。想像すると胸が張り裂けそうになる。祖母は、私に「生きる」ことの尊さを教えてくれた。これからもずっと忘れてはいけない。たった15年しか生きていない私だけけれど、これは「間違いのない」ことだと思うから。

未来の私へ。今、あなたは何をしていますか。夢である中学校の教師になっていますか。忙しさの中で、大切なものを見失ってはいませんか。

今の私は、自分へのいらだちと劣等感で悩むことも多くあります。このつらさや苦しさを「いい経験だった」と思える日がきますか。

私は自分の気持ちを素直に伝えることが苦手です。それは周囲に拒絶されるのが怖いから。私には勇気が必要だと思います。今、この瞬間はかけがえのないものです。二度と戻ってこないものだからこそ、自分の思いを素直に伝えることが必要です。思いを伝えられずに二度と会えなくなったら一生の後悔となります。

どうか、あなたの目の前にいる生徒を救える教師になっていきますように。今の私のように劣等感や悩みを抱えている生徒を。

おばあちゃんから教えてもらった。自分らしく、堂々と生きる人生を送ってください。迷ったら思い出してください。おばあちゃんの声。

「南ならできる」。